様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日現在

機関番号：２４５０６
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2012
課題番号：２３６５３１３２

研究課題名（和文）　環境問題に関する日英のテレビニュースのディスコースのマルチ・モダリティ分析

研究課題名（英文）　A Multi-modal Analysis of British and Japanese Television News Discourses in the Representation of Environmental Issues

研究代表者
糟屋　美千子（KASUYA　MICHIKO）
兵庫県立大学・環境人間学部・准教授
研究者番号：20514433

研究成果の概要（和文）：環境問題に関する日英のテレビニュースのディスコースのマルチ・モダリティ分析により、取り上げられた情報の選択、話の展開、特定の見方を表す語彙および語法、映像などの要素が抽出された。また、環境問題の原因や関与者、解決方法など環境問題に関するイデオロギーが、こうしたディスコースの要素の相互作用により構築されていることが明らかになり、環境問題のイデオロギー分析のためには、これらの要素を総合的に検討する必要があることがわかった。

研究成果の概要（英文）：This study conducted a multi-modal analysis of British and Japanese television news discourses that portray environmental issues. The study identified elements of news discourse such as the selection of information, rhetorical features, lexical items, syntax and visual elements, as factors for the analysis of ideology related to environmental problems. The study showed that ideology related to the causal relationships, participants and solutions of environmental issues can be elucidated by examining the interaction of these elements of discourse.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：コミュニケーション・情報・メディア、環境報道、ディスコース分析

１．研究開始当初の背景

深刻化する様々な環境問題の背景には、環境問題に関するイデオロギー、具体的には、環境問題の要因や解決方法などに関する人々の考え方の枠組みがある。マスコミュニケーション研究の分野では、ニュースが人々の考え方の枠組みに及ぼす影響の大きさが指摘され、ニュースの偏向性が議論されてきた。そして、ニュースは事実を客観的に語っているようであるが、実際は、社会の出来事を特定の見方から解釈し、その見方を社会の人々に示し、広めるものであるという指摘がなされてきた。

しかし、従来のマスコミュニケーション研究の分野では、環境問題に関するテレビニュースによるイデオロギー構築について、そのディスコースを微細に検討して、分析の根拠を示した研究はほとんど行われていない。また、テレビニュースは、言語面だけでも、レトリック・語彙・語法など様々な要素が複雑

に組み合わされているが、それに加えて、映像などのパラ言語的要素が相互作用してイデオロギーを構築している。しかし、こうした様々な要素を包括的にみることを可能にする、テレビニュースのマルチ・モダリティ分析の研究はこれまで試みられておらず、イデオロギー構築のメカニズムを、言語学的に微細に検討し、さらに映像などのパラ言語的要素も含めて多面的・多層的に明らかにする研究が求められる。

２．研究の目的

本研究は、社会研究のための言語分析である、クリティカル・ディスコース分析のアプローチを用いて、環境問題に関する日英のテレビニュースにおけるイデオロギー構築のメカニズムを多面的に分析し、環境問題に関する現代社会のイデオロギーが、テレビニュースのディスコースの言語的要素・パラ言語的要素により、どのように構築されているかを解明することを目的とする。

クリティカル・ディスコース分析は、ディスコースを「社会的実践としての言語」ととらえ、ディスコースは社会により形作られるだけでなく、社会を形成するという視点に基づいている。そして、ディスコースを分析することで、社会における考え方の枠組みがどのように構築されているかを顕在化させ、その結果生じる社会的諸矛盾など、社会の問題点を明らかにし、それを解決していくことを目指しているものである。

このように、環境問題という社会的問題に対して、異分野と考えられてきた言語分析の手法を用いることにより、これまでのマスコミュニケーション研究では十分でなかった、言語に表れた具体的な根拠を示した分析をすることができる。また、言語の分析のみでなく、言語的要素とパラ言語的要素との関係も合わせてみることで、包括的な根拠を示した分析が可能となる。本研究は社会学における、環境問題に関するテレビニュースのイデオロギー分析に新たな視点をもたらすものである。

３．研究の方法

(1) データ収集・要素の抽出

データとして、公共放送としてできるだけ幅広い視点から情報を提供し、多角的に問題を明らかにすることを目指すとしている、日本の NHK および英国の BBC のテレビニュースを使用した。これらのニュースを録画し、録画データの中から、環境問題に関する報道を行っているニュースを選択した。録画記録をもとに、アンカー・レポーター・ニュースリーダー・インタビューの言葉などの言語的要素、映像などのパラ言語的要素を書き起こし、スクリプトを作成した。文字起こしについては、適宜漢字かな混じり文とし、句読点を挿入した。

スクリプトをもとに、クリティカル・ディスコース分析を中心としたディスコース理論やメディア理論に沿って検討を行ない、イデオロギーを構築していると考えられる要素を抽出し、それらの要素を分類・整理し、体系化した。

(2) ニュースの分析・日英比較

抽出された要素に沿って、テレビニュースの言語的・パラ言語的要素の相互作用によるイデオロギー構築のメカニズムを検討した。第一段階として、環境問題に関する NHK のテレビニュースを分析し、ニュースの言語的・パラ言語的要素により、環境問題の原因や解決方法などに関するイデオロギーがどのように構築されているかを検討した。第二段階として、環境問題に関する BBC のテレビニュースを分析した。第三段階として、NHK のニュースと BBC ニュースにおけるイデオロギー構築の仕組みの比較検討を行なった。

４．研究成果

環境問題に関する日本と英国の公共放送のテレビニュース（BBC と NHK）の比較分析を行った結果、日英のニュースともに、イデオロギーを構築している要素として、環境問題のどのような側面が取り上げられているか、また取り上げられていないかという情報の選択、ニュースの話の展開、特定の見方を表していると考えられる語彙および語法、映像などのディスコースの要素が抽出され、環境問題のイデオロギー分析のためには、これらの諸要素を総合的に検討することが必要であることがわかった。また、環境問題の原因や関与者、解決方法など環境問題に関するイデオロギーが、こうした要素の相互作用により構築されていることが明らかになった。

総合的に検討すること、及びディスコースの要素間の相互作用をみることの必要性・有用性を整理すると、以下のようにまとめることができた。

(1) 言語的要素間の関係

環境問題に関するニュース・ディスコースのイデオロギーをみる言語的要素としては、情報の選択、話の展開、語彙・語法などがあるが、これらのうちの１つの要素から読み取れることが、別の要素でも一致してみられることを確認することで、イデオロギー構築に関する考察の妥当性が補強された。例えば、ある環境問題の関与者について、特定の側面のみを強調しているという解釈が、ニュースにおけるアンカーの解説やインタビューの言葉においての情報の選択だけでなく、語彙や語法などの別の言語的要素でもみてとれ

ることを指摘することで補強され、分析の適切さが示された。

また、全てのことが全ての要素に表れているわけではないので、1 つの言語的要素だけでは十分な分析ができないことが、別の言語的要素をみてわかることがあった。例えば、語彙だけでは、環境問題の関与者についてポジティブな描写をしていると判断されることが、情報の選択など他の言語的要素を合わせてみると、全体としてはネガティブな描写をしているということがわかった。また、情報の選択だけでは、環境問題の原因として、ある要因が指摘されているように判断されても、ニュース全体の話の展開という要素も含めて検討すると、その要因の影響が小さいものとして扱われていることがわかった。

(2) 言語的要素とパラ言語的要素の関係

パラ言語的要素は、それだけではメッセージの特定が難しいという性質がある。パラ言語的要素だけでは判断できないことが、言語的要素とパラ言語的要素と組み合わせて検討してみるとメッセージが明確になることがあり、これらの要素間の関係を総合的にみることが必要であった。例えば、環境問題の関与者の映像は、それだけをみたのではメッセージの解釈は難しいが、アンカーの解説やインタビューの言葉など、映像とともに報じられている言語的要素と組み合わせると、関与者が特定の役割や属性をもつものとして描写されていることがわかった。

(3) 言語的・パラ言語的要素とこれらをみる視点の関係

以上のように、環境問題に関するテレビニュースのディスコースの要素により、どのようなイデオロギーがいかにして構築されているかを読み取るのは複雑な作業である。この複雑な過程を整理するために、環境問題の因果関係、解決方法、関与者はどう表されているかという視点から言語的要素・パラ言語的要素を検討すると、特定の考え方を構築している仕組みがわかりやすくなることがわかった。

① 環境問題の因果関係とディスコースの各要素

ディスコースの各要素は、環境問題の因果関係を描くことで、特定の考え方を表していた。例えば、情報の選択を、環境問題の因果関係をどう構築しているかという視点からみると、本来、問題のもっとも重大な原因と考えられることがニュースに取り上げられず、問題の一部である、比較的小さいものの原因と結果だけが取り上げられ、小さいものの原因にのみ責任があるということを表していることがわかった。

② 環境問題の現状及び解決方法と、ディスコースの各要素

ディスコースの各要素は、環境問題の現状とその解決方法を描くことで、特定の考え方を表していた。例えば、情報の選択を、環境問題の現状及び解決方法をどう構築しているかという視点からみると、現在の問題の特定の部分の解決方法のみを取り上げており、他の重要と考えられる部分の解決方法の検討が置き去りにされていることがわかった。

③ 環境問題の関与者とディスコースの各要素

ディスコースの各要素は、環境問題の関与者を描くことで、特定の考え方を表していた。例えば、語彙に注目して、環境問題の関与者をどう描写しているかという視点で検討すると、関与者の特定の属性のみを強調していることがわかった。例をあげると、解決に向けて積極的に考えて行動するという属性のみを与えられている関与者がいる一方で、受身の被害者としてのみ描写されている関与者がいることがわかった。各存在は本来は多面的な属性をもつものであるが、そうしたバランスのとれた見方で描かれていないことが明らかになった。

以上のように、言語を厳密に分析することで、ニュースの表している考え方を言語的根拠をもって指摘することが可能になった。また、言語的要素同士の相互作用、言語的要素とパラ言語的要素の相互作用、言語的・パラ言語的要素とこれらをみる視点との関係、などを総合的にみることで、包括的な分析ができた。こうすることで、分析によって明らかになったニュースの表す考え方の意味することを検討し、その考えが問題の本質的な解決のために有用なものかを考察することが可能となった。

本研究が示唆するように、ニュースが構築している考え方は、1つの要素だけを吟味してもわかるとは限らない。1つの要素が何かを述べたとしても、他の要素が違うことを述べ、全体としてはバランスのとれた伝え方をしているかもしれない。よって、ニュースでは、多面的な要素から全体を総合的にみて、そのニュースの言語的要素・パラ言語的要素が一貫して同じことを言っているのをみることが必要である。

今回は、日本と英国の公共放送を分析の対象としたが、今後は民間放送も分析対象とし、これらを多層的に比較検討することで、ニュースがイデオロギーを構築する仕組みがより多面的に明らかにできると予想され、さらに分析対象を広げていくことが必要だと考えられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計２件）
Michiko Kasuya, A multi-modal comparative analysis of British and Japanese news discourses in the representation of environmental issues, 45th Annual Meeting of the British Association for Applied Linguistics, 2012年9月6日, University of Southampton, UK

Michiko Kasuya, How the discourse of Japanese television news produces interpretive frameworks for understanding environmental issues in relation to economic and political contexts, Ⅱ International Conference on Communication, Cognition and Media: Political and Economic Discourse, 2012 年 9 月 19 日, Catholic University of Portugal

６．研究組織
(1)研究代表者
糟屋　美千子（KASUYA MICHIKO）
兵庫県立大学・環境人間学部・准教授
研究者番号：20514433

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：